

令和4年6月28日

渋谷区長 長谷部 健 様

渋谷の空を守る会 共同代表  
須永知男 塩野兼吉 多羅尾敦

## 要 望 書

3月13日に渋谷区本町で発生した氷塊落下（通報者によると直径7cm、推定1kg、見たことのない形状。他に5cm位の物が数個）について、当会の求めに応じ渋谷区が国土交通省に事実確認した結果についての、5月13日付 長谷部区長の当会宛の回答書を頂きました。

残念ながら期待した内容ではありませんでした。そこにはかねてから指摘されてきた航空機からの物体落下が現実が発生したことに対する新ルート近辺住民の不安を区長として受け止めて、国に原因の究明を求める姿勢が見られません。

専門家は、氷塊が羽田に向かう航空機がギアダウンの際に格納ケースから落とした可能性が高いと推定しています。当日ヒョウが降った記録は無く、気温は18度超、氷塊を撮影したスマホの写真には日ざしが映っています。撮影記録時間直前に航空機が上を飛んでいたことは国交省も認めています。

国交省は、その時間に飛んだ航空機からの整備異常記録報告が無かったこと、落下場所が所定の経路から350m離れていることだけをもって、航空機が原因である可能性は極めて低いとしています。国交省は現場視察に来た国会議員や住民の前で、一旦は疑惑機の脚出し位置を調べると言いましたが、新聞報道によればこれもしないで幕引きとするようです。通報者も納得していません。某元整備士は車輪ケースからの氷塊の落下では機体に痕跡は残らないとっています。現地で見上げるとほぼ真上を飛びます。研究機関と情報を持つ国交省がその気になれば、様々の条件を調査、考慮してシミュレーションし、原因を絞り込むことが可能です。

成田空港着陸機からの氷塊落下対策では、九十九里沖ないし林、農地の上で脚出しをしています。区長は住民や来訪者の上で脚出しを許容しているようですが、同じ国交省の千葉県への対応との違いをどうお感じでしょうか。

国の不誠実な弁明をそのまま住民に伝えるだけでなく、区長ご自身が氷塊落下現場に出向き、関係者から生の声を聴いて、どこからの氷塊か想像してみてください。落下物直撃に対する住民の恐怖と懸念を国に強く伝えてください。国交省に対して関係者が納得できる原因究明を求めて下さい。そして解明できるまで飛行停止を求めてください。

以上

本件に関する当会の連絡先は次の通りです。

〒150-0021 渋谷区恵比寿西2-17-3

渋谷の空を守る会 共同代表 須永知男 (Tel. 090-8806-4064)

[v4064ts@docomo.ne.jp](mailto:v4064ts@docomo.ne.jp)